

昨日はポップコーン1袋だけ■1日2食、冷凍食品ばかり

食料支援に切実な声続く

京都市下京区

コロナ禍で生活に困る市民や学生を支援する食料提供と相談会が3日、京都市下京区で行われ、47人が参加しました。同区では3回目の開催です。

下京食料支援プロジェクトが主催し、日本民主青年同盟と下京生活と健康を守る会が後援しました。

近くに住む私立大学の4回生は「高い学費を払っているのにオン

ライン授業は納得できない。サークルも実習もできず、ずっとパソコンに向き合う1年だった」と不満を語りま

す。大学院進学のためには「昨日の食事はポップコーン1袋だけ。普通の大学生を送れるような対策と、学費を下げてほしい」と述べました。

3歳の子とも来た30代女性は3回目の参加。「夫がコンビニの店員で手取りが5万円

減って15万円になった。時短勤務を強いられ、その分の支援がほしい。自分もパートで5万円ほどしかない。食費をかせがないように

た。時短勤務を強いられ、その分の支援がほしい。自分もパートで5万円ほどしかない。食費をかせがないように



支援の食料を選ぶ学生ら。右、京都市下京区

しており、食料提供は助かる」と話していました。

青森

日本民主青年同盟青森県委員会は3日、青森市内で3回目の学生向けの食料支援を開催しました。

会場は、学生アパートが集まる地域にある市民センター。米やレトルト食品、日用品を詰めた「基本セット」の他に、東青農民組合から差し入れのあったキャベツやジャガイモなどの野菜や、生理用品が並びました。

県外から来た男子学生

生(1年)は、「コロナでやりたい活動が制限されている。マスク越しではコミュニケーションも取りづらく、仲

良くなる機会が少なかった。GOTOとか無駄な政策はやめてほしい」と訴えました。キャベツを手に、「ロールキャベツを作ってみようかな」と笑顔をみせた男子学生(1年)は、「1日2食で、普段は冷凍食品ばかり。本当にありがたいです」と話しました。



食料支援に訪れた学生と対話する、秋野優子県委員長(右から2番目)。3日、青森市

民費が全国一律1000円以上の最低賃金を求めていることを知らされると、「今やっている深夜バイトは時給1000円。実現すれば深夜に働かなくて済む。自由な時間が増えて学生らしく生活できますね」と共感を寄せました。